

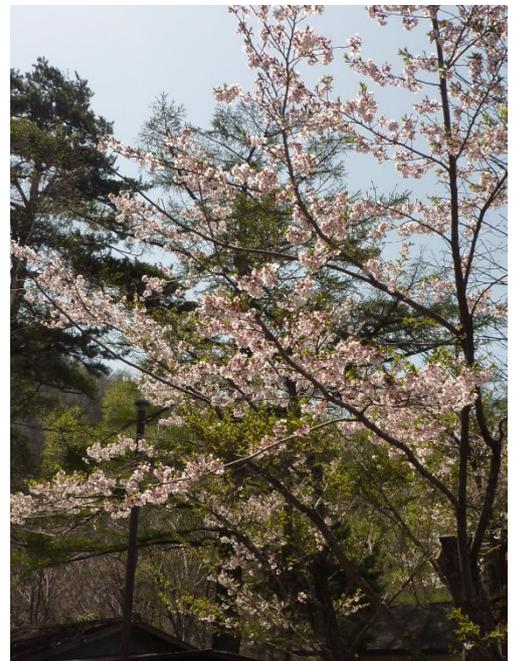
浅間山（2524m）登山



民謡・小諸馬子唄の「小諸出て見よ 浅間の山に 今日も三筋の煙立つ」と、謳われた浅間山に行ってきました。

- 日程 2013年5月14日～15日
- 参加者 石川誠 他1名
- 行程 5月14日（火）晴
横須賀5：15分発—環八、関越、上信越道経由し
9：35浅間山荘着
山荘10:00 発—ノ鳥居、不動滝、二ノ鳥居経由し
12:20火山館着 12:35—湯の平、賽の河原経由—15:00
着浅間山（前掛山）15：10 発往路下山— 天狗温泉
浅間山荘 18：20 着 宿泊

昨年10月 高峰高原車坂峠～トーマの頭、黒斑山、蛇骨岳
経由浅間山を計画したが、途中時間的な関係から蛇骨岳で引き
返した経緯があり、稜線から眺めた浅間山の姿が素晴らしく、
今回の山行となった。



「山桜も真っ盛り」

車で直接浅間山荘まで入り、ゆっくりする予定であったが、途中渋滞もなく早く着いたので、今日中に登山することにした。

山荘からの山道は蛇堀川に沿って登山道が開かれていて、丁度山桜やスミシの花が咲いていてとてもきれい。

周りにはカラマツ、ダケカンバ、クヌギ、椎の木などの灌木帯に丁度新芽が芽吹き、陽に映え、



「登山者への火山情報」

情報の発信基地ともなっているようだ。

此処の水は黒斑山の裾野から引かれて冷たい美味しい水を飲むことが出来た。ここには浅間神社が祀られていて行き帰りに登山の無事を祈った。

ここからいよいよ湯の平、賽の河原を經由し浅間山の登りに掛かる。日頃の不摂生とトレーニング不足で稜線への登りがきつくなる。この頃より下山してくる人も多くなり、「これから登るの？大変だよ」と稜線を見上げながら励まされる。登るにつれて

第二外輪山の黒斑山、蛇骨岳が徐々に下に見えてくると肩の稜線に出る。

此処にはシェルターが二つあり、火口にはまだ雪が残り、蒸気もわずかであるが噴出していた。

ここから頂上には少し雪が残る稜線を浅間山（前掛山・2524m）の頂上へ、頂上と言っても第一外輪山の頂上で本当の浅間山は登山禁止区域内にあって、別名釜山（2568m）ということである。

頂上で写真を撮り、時間も押していたので早々に頂上を後にする。

下りは気分的にも楽でのんびり下るがやはり外輪山に囲まれた風景は他の山とは一風変わった風景を醸し出している。火山館で冷たい水を飲み、顔を拭いて気分一新残りの山道を一歩山荘へ。

登山道の道端には石で囲った炭焼き小屋の後も見ることが出来た。

ウグイスやキビタキ？など小鳥が鳴き交わす清々しい季節で迎えてくれた。

登山者はもう早いうちに出発して周りには見えなかった。途中下山してくる人に聞いたら朝4時30分に出発したとのことであった。一ノ鳥居から不動滝經由し二ノ鳥居へそしてカモシカ平という草原をとおって火山館に到着する。

ここには立派なログハウス風の山小屋が建っていて管理人が常駐している。

館は浅間山の鳥や動植物の資料館として、また、火山



「天狗温泉・浅間山荘」



「賽の河原から見上げる黒斑山」



「浅間山登山道途中から眺める第一外輪山 蛇骨岳」

山荘の夕飯は山菜の天ぷら、蕎麦など豊富で疲れた身体に飲み干した生ビールが最高であった。また此処の温泉は鉄分が含まれ日本一茶褐色とのことで、疲れた身体をほぐしてくれ、シーズン前でもあり木立に囲まれた静かで良い山荘であった。

茶褐色の温泉という思い出すが朝日連峰の麓にある朝日鉱泉のお風呂も茶褐色、使った手拭いが茶色に染まったのが忘れられない。



「頂上への道」



「浅間山（前掛山）頂上」

5月15日（水）晴

浅間山荘 9:30—軽井沢経由、時折休憩を取りながら元来た道を帰宅する。

石川 記



「途中にある避難小屋 火山館」